

横浜市立丸山台中学校カリキュラム

総 則（教育課程編成の方針）

1. 学校教育目標の設定

丸山台中学校は、日本国憲法、教育基本法、学校教育法の精神に則り、その規定に従いながら、横浜教育ビジョン2030に示された「横浜の子ども」を育成するために、次のように学校教育目標を設定します。

まちに生き、自分で自分の生き方を切り拓いていける人

- 自ら学び考え、意欲的に学習に取り組む人を育てます。【知】
- 自分や他人の生命を尊重し、大切にできる人を育てます。【徳】
- 自ら健康を保持増進できる人を育てます。【体】
- 自律心を持ち、自ら進んで、社会の発展に貢献していく人を育てます。【公】
- 広い視野を持ち、積極的に未来を創り出す人を育てます。【開】

2. 本校のカリキュラムの特色と教育課程編成の方針

本校のカリキュラムは、「想像する力」「やりとげる力」の2つの力からなる「自立のための基礎力」の育成をすべての教育活動のゴールとして設定し、教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間などのあらゆる教育活動を通して2つの力を構成する7つの能力要素（「先を読む力（計画力）」「伝える力（発信力）」「聴く力（傾聴力）」「関係を理解する力（状況把握力）」「進んで取り組む力（主体性）」「あきらめない力（実行力）」「ルールや約束を守る力（規律性）」）の育成を図ることによりゴールに迫るというグランドデザイン（全体構造）を特色としています。

身につけさせたい力（ゴール）として設定した「自立のための基礎力」は、学習指導要領で育成が求められている「生きる力」と多くの部分で重なる力であると同時に、中学校3年間だけでなく生涯にわたって生きてはたらく資質・能力であり、その育成は「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すものです。この資質・能力を生徒に可能な限り身につけさせて卒業させることは本校教職員の使命であるとも言えます。その使命を達成するために本校では3年間で身につけさせたい力である「想像する力」「やりとげる力」と各教科等との関わりを明確にした上で様々な教育活動を展開していきます。

さらに横浜市立学校カリキュラム・マネジメント要領において教育課程全体を通して教科等横断的に育成を目指す資質・能力とされている「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」についても各教科等の担う役割や対応を明確にした上で取り組んでいくとともに、小中一貫教育推進ブロック4校における教育課程全体を通して教科横断的に育成を目指す資質・能力としている「自分づくりに関する力」の育成を重点として教育活動を展開していきます。



3. 実施上の配慮事項

本校の教育活動の効果を最大限に発揮させるために、様々な教育活動を「身につけさせたい力（ゴール）→評価規準→評価方法→活動内容」の順で計画・実施し、PDCAサイクルによる授業改善を一層進めるよう努めます。

また教育活動の効果を上げるためには教職員の力量を高めていく必要があります。そのために研究・研修が主体的に行われる学校文化を創造していきます。

さらに学校の教育活動が日々平常に営まれるためには、その基盤として

- ・家庭・地域・学校がそれぞれの役割と責任を認識し合った連携体制
- ・学習環境の充実・整備
- ・学習の主たる現場である学級の在り方についての共通理解

等が必要であると考えます。これらを常に意識し目標化することにより、全ての教育活動の前提とします。

【参考】

「自立のための基礎力」とは

- ・将来自立していくために、中学生の時から身につけていきたい基礎的な力。
- ・中学校在学中はもちろんのこと、大人になってからも大切になる力。
- ・「想像する力」「やりとげる力」の2つの力と、7つの能力要素により構成される。

